2026教員父母連絡会総会レポート



伝統を継承しながら進化する京田辺キャンパスと共に

6月6日（土）14時より、2026年度スポーツ健康科学部教員父母連絡会総会が、Zoomによるオンライン形式で開催されました。当日は90名の保護者の皆様にご参加いただき、二上英樹前会長による開会挨拶、および北條達也学部長の挨拶と近況報告が行われました。

学部長からは、本総会に今年度新入生の保護者が多数出席されていることから、まず同志社大学の歴史と現在の環境について説明がありました。次に、本学部が拠点を置く京田辺校地が今年で開設40年という節目を迎えることから、現在キャンパス内では大幅なリニューアル工事が進行中であり、山本覚馬記念アリーナの始動、デイヴィス記念館地下のトレーニングルーム拡充、最新機器の多数導入、それらに伴う専門トレーナーの常駐開始などが紹介されました。教育面においては、生成AIの急速な普及を挙げ、学生にはAIに支配されない本質的な人間力を高める教育を提供すべく、ご家庭と連携しながら最善の指導方法を模索していく姿勢が示されました。

その後は議長を選出し、25年度の事業報告および奨学金授与者の報告が行われました。続いて議事に移り、まず25年度決算および監査報告が行われ、原案通り承認されました。その後、26年度の事業計画案・予算案・新役員選出案が審議され、いずれも承認されました。新体制の発足にあたり、橋本佳美新会長をはじめ、太田秀樹新副会長、新任の笠原氏らから、「子どもたちの自立を促しつつ、大学との確かな橋渡し役として、安心・安全な学生生活をサポートしていきたい」との抱負が述べられました。総会終了後は教員紹介に続き、教員による本学部での学びと学生支援、株式会社マイナビ様によるご父母向けの就活講座が実施されました。

●スポーツ健康科学部で学ぶこと
文理融合の学びときめ細やかな少人数教育

教務主任　髙倉久志 准教授

スポーツ健康科学部における学びは、単なる競技力の向上や健康の維持・増進にとどまらず、文理融合型の応用総合科学として「健康科学」「トレーニング科学」「スポーツ・マネジメント」という3つの学修領域を展開している点に大きな特徴があります。「健康科学」ではスポーツ・運動を通じた健康づくりや生活習慣病の予防などを学びます。「トレーニング科学」は競技力向上を科学する領域、「スポーツ・マネジメント」はスポーツを取り巻く社会環境の整備などを扱います。学生は自身の興味や将来の目標に応じて、これら3つの領域を自由かつ横断的に履修することが可能です。

カリキュラムの第2の特色は、幅広い実験・実習能力の獲得を目指す実習系の授業です。2年次の必修科目「基礎実習」では自然科学系・社会科学系の双方に必要な実験・調査能力の修得を目指し、グループに分かれて、11種類の実習クラスを毎週ローテーションで受講し、レポートを作成します。この基礎を踏まえ、より専門性を高めたい学生向けには、さらに発展的な選択科目「応用実習」も用意されています。



髙倉久志教務主任

第3の特色は、徹底した少人数体制による教育です。1年次春学期の「ファーストイヤーセミナー」では、1クラス約14名という密度の濃い環境で、文献検索やレポートの書き方など大学での学びの基礎を習得します。また3・4年次の「演習（ゼミ）」では、10～13名程度という少人数の中で教員と密なコミュニケーションを取りながら、卒業論文に向けた専門的な研究に励む環境が整っています。第4の特色は総合大学のメリットを活かし、他学部の一部の専門科目が受講できる点です。実験機器も学部をまたいで利用できるケースがあります。

なお授業形態においては、対面授業13週と、主体的な学びを促すためのオンデマンド授業2週分を組み合わせた新しい学びのスタイルを採用しています。特に1週目はオリエンテーション期間として、オンデマンドで受講する「DO Week」となっています。これによって生み出された時間を活かし、学生たちがインターンシップやボランティア、海外留学など、主体的に挑戦することが期待されています。

卒業には4年以上の在籍と124単位以上の修得が必要です。また、中高の保健体育教員免許（一種）や、公認スポーツ指導者など各種スポーツ指導者資格の取得が可能です。なお教育・研究・就業・学生活動の場などでハラスメントが行われた場合は、キャンパスハラスメントの相談制度があります。

●スポーツ健康科学部の学生支援
充実したサポートと就職状況

学生主任　岩田昌太郎 教授

スポーツ健康科学部の教育研究棟である磐上館は、京田辺校地北側の広大なスポーツ施設エリアの中央にあります。磐上館には演習室、最新のスポーツ科学が学修できる各種実験室、書庫、多目的実習室、カンファレンスルーム、自習教室などを設けています。このキャンパスを中心に、本学部では大学院を合わせて1000名近くが学業・研究・スポーツ活動に取り組んでいます。

奨学金につきましては、経済的支援を目的とした経済支援奨学金、学業・スポーツの奨励を目的とした奨励奨学金があります。前者は日本学生支援機構や各地方公共団体によるものなどがあり、後者は本学の育英奨学金のほか、学部・教員父母連絡会・同志社校友会による奨学金、同志社大学寄付奨学金などがあります。



岩田昌太郎学生主任

24年度卒業生のデータによれば本学部の就職率は100％を達成しており、全学平均と比較しても非常に高い水準を維持しています。有名スポーツメーカーをはじめ、大手健康薬品メーカー、大手金融・保険機関、商社、大手総合通信キャリアなど、名だたる主要企業へも多数就職しています。高い実績の背景には、キャリアセンターによる手厚い就職支援のほか、学部独自の就職対策セミナーなどがあります。教職などを目指す学生には免許資格課程センターがバックアップしています。

大学生活において、特に近年は飲酒トラブル、薬物の乱用、「闇バイト」などの悪徳商法・悪質勧誘の被害が問題化しています。大学生活を安全に送るため、入学時のガイドブック配布やファーストイヤーセミナーでの講演などで注意喚起を行っていますが、ご家庭におかれましてもご子女の変化やお困り事があれば、遠慮なく大学や学部事務室へご相談ください。

●保護者向け就活セミナー
最新の就職活動概況
～採用動向から保護者の役割まで

株式会社マイナビ　筒井あづさ 様

昨今の新卒採用市場は、大卒求人倍率が1・62倍と売り手市場が続いていますが、ここ1、2年で企業の動向は激しく変化しています。AIの急速な発達により、面接手法も変化しています。解答を早く正確に導く力や定型文のエントリーシートなどはAIに代替されるため、書類選考を動画による自己PRに切り替える企業もあるなど、人間ならではの能力を見極める選考へとシフトしています。つまりこれからの社会で求められるのは、AIで代替できない能力です。そもそも何が課題なのかを発見する課題発見力、AIを活用して問題を解決する力、そして他者と良好な関係を築くコミュニケーション力などがそうです。学生さんには、これらの力を大学生活の中で鍛えていただければと思います。

企業の新卒者に対する採用活動は、3年次の3月がピークです。政府との協定では3月に情報解禁となってはいますが、3月1日時点ですでに内定を得ている学生さんも少なくありません。ただそういうケースでも、大半は引き続き就活を継続する傾向にあります。

3年夏のインターンシップですが、このプログラムで企業側は、参加者の素直さ、誠実さ、コミュニケーション能力、あるいは企業の価値観に学生がどれだけ共感できているかを重視する傾向にあります。企業にとって採用活動とインターンシップはあくまでも別物ですが、学生にとっては企業の情報を集め、自身の企業観を磨いたり見識を広めたりできる良い機会だとお考えください。また企業は、やるべきことに向き合う姿勢を評価するため、学業成績や履修履歴も重視しています。

保護者の皆様におかれましては、社会人の先輩としてご自身の実体験やお子様の強み、弱みを、根拠をもって言葉にして伝えてあげてください。SNS等にはソースが不明な情報もありますので、信憑性のある情報をもとに、お子様のよき理解者としてサポートしていただければと思います。

＊　＊　＊

今回も多くのご父母の皆様にご出席いただき、皆様のご協力によって総会が無事に終了しました。誠にありがとうございました。

スポ健 きらり 018

コート上の格闘家！

西村葵さん（2年）

2024年パリ・パラリンピックに、日本代表女子車いすバスケットボールチームの一員として高校生で出場。次回のロサンゼルス・パラリンピックでも活躍が期待される有望選手です。



【にしむら・あおい】　スポーツ健康科学部２年次生。奈良育英高等学校出身。女子車いすバスケットボールチーム・カクテルの一員として、高校１～３年で皇后杯優勝。高校２年で日本代表次世代強化指定選手に選出、U25世界選手権８位、AOC（パラリンピック予選）２位。高校３年でパリ・パラリンピック出場、７位。大学１年次、AOC（世界選手権予選）２位。

パラリンピックで味わった悔しさをバネに徹底したフィジカル強化に挑む

「何もできないうちに終わってしまった」。高校３年で出場したパリ・パラリンピック。次世代を担うホープとして期待され、意気揚々と乗り込んだものの、西村さんは早々に大きな敗北感を味わう。初戦で相対したオランダ選手は「背が高いし、でかいし、そもそも体格が違う」。フィジカルも格段に強く、シュートを軽々とブロックされて歯が立たなかったという。

この悔しさから、西村さんはフィジカル強化を決意。帰国後すぐにパーソナル筋力トレーニングを開始し、腕といわず腹筋といわず動く機能は全部鍛え、徹底的なパワーアップを図る。同時に、スタミナやスピード、当たり負けしない精神的な強さも手に入れようと、地元奈良の男子チームＤＥＥＲに加入した。健常者も出場する試合で、筋肉隆々の男子選手などとぶつかるとかなりの衝撃を受けるが、体幹を鍛えたお陰で、最近はあまり当たり負けしなくなった。恐怖心も消え、気持ちの面でも強くなったと感じている。６月21日に行われた西日本車いすバスケットボール選抜大会では、ＤＥＥＲメンバー中で２番目に多い11点を挙げ、チームの優勝を牽引した。

車いすバスケットボールを始めたのは小学校６年のとき。小４で交通事故に遭ってから自宅に引きこもっていた西村さんに、リハビリ病院の作業療法士が紹介してくれたのがきっかけだ。大阪・京都を拠点に活動する女子車いすバスケットチーム・カクテルの練習を見学にいき、競技用車いすに試乗した。「軽くてスピードが出るし、自在に動かせるし、すごく自由になった気がして、楽しくて」、そのままカクテルに加入した。

ところが、ようやく競技の面白さがわかり始めた中学１年の冬頃、コロナ禍のために全活動がストップ。練習が再開されたのは２年後、高校生になってからだった。以降、長いブランクを取り戻すべく猛練習に励み、高１でカクテルの主戦メンバーに。チームの皇后杯９連覇などに貢献するとともに、個人的にも高校２年から日本代表次世代強化指定選手に選出され、U25世界選手権出場、そしてパラリンピック出場と、どんどんステージを上げ、今では日本のトップ選手の１人として活躍している。

過密スケジュールもなんのその目指すは大学生でのメダル獲得

週末はさまざまな試合に出場し、平日はカクテルや男子チームでの練習、パーソナル筋力トレーニングと、ほぼバスケット漬けの毎日だ。大学とコートを行ったり来たりという過密スケジュールの中、週に１日は授業集中日を設けるなどして学業の時間を確保している。受講しているのは競技に役立つ科目が中心だ。例えば「トレーニング論」の授業で学んだ科学的な練習法をコートで実践し、その結果を次の授業でフィードバックして効果を検証する。「コーチング論」で得たコミュニケーション手法や理論はクラブのメンバーと共有し、チームの意思疎通を促進するといった具合に、教室での学びと練習を連動させて、パフォーマンス向上に活かしている。

ここまで西村さんが練習に打ち込めるのは２つの大きな目標があるからだ。１つは２０２８年のロサンゼルス・パラリンピックでのメダル獲得。すでに大会の強化指定選手に選ばれており、毎月、授業をやりくりして、東京まで合同練習に通っている。厳しい練習で培われた卓抜した技術と、前回の借りを返すという強い意志、そしてさまざまな学びによって培われた人間的成長が、今度こそメダルを引き寄せるにちがいない。

もう１つは、車いす女子パスケの魅力をもっと広めたいという強い思いだ。男子は漫画の影響もあって競技人口がかなり増えたが、女子選手はまだまだ少ない。「私が外の世界に踏み出せたのは、バスケットとの出合いがあったから。コート上でいきいきと活躍する自分の姿が、家に閉じこもっている人の一歩を後押しできたら」。そのためにも、ロサンゼルスでは誰よりもアグレッシブに、誰よりも果敢にゲームに挑むつもりだ。

新しく着任された先生から自己紹介



西牧未央先生

西牧　未央先生

２０２６年４月より、スポーツ健康科学部に助教として着任いたしました西牧未央（にしまきみお）と申します。

学生時代はレスリング選手として競技に取り組み、その経験から至学館大学健康科学部、同大学院、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科へと進み、博士（スポーツ科学）を取得いたしました。国立スポーツ科学センターや三重大学医学系研究科での研究員、本学スポーツ健康科学部助手、奈良女子大学助教を経て、このたびご縁があって本学に戻ってまいりました。

専門は運動生理学・スポーツ健康管理学で、特に体重階級制競技における急速減量が選手の身体やホルモン動態に及ぼす影響、女性アスリートの月経周期を考慮した減量法の確立、減量期の脱水状態の評価などを、レスリング選手を対象とした調査を通じて明らかにしてきました。近年はラットを用いた基礎実験にも取り組み、性ホルモンが食嗜好性やエネルギー代謝に与える影響を性差の観点から研究しています。現役時代に自ら経験した減量の苦労を原点に、競技経験と研究の両面から、アスリートの健康を守りながらパフォーマンスを高める方法を探ることを目指しています。

授業では「スポーツ測定評価論」「スポーツ方法実習（レスリング・フィジカルトレーニング）」などを担当いたします。学生の皆さんの学びと成長を支えられるよう、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

小木曽　湧先生



小木曽湧先生

はじめまして。２０２６年４月よりスポーツ健康科学部に着任いたしました、小木曽湧（おぎそわく）と申します。２０１８年に神戸大学発達科学部人間行動学科を卒業後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科にて修士課程・博士後期課程を修了し、博士（スポーツ科学）を取得いたしました。その後、２０２３年４月より東洋大学健康スポーツ科学部にて助教を務めてまいりました。このたび、思い入れのある関西の地で教育・研究に携わる機会をいただけましたこと、心より嬉しく思っております。

私の専門はスポーツマネジメントです。スポーツ組織やアスリートの活動・発信が、人々の意識や行動にどのような影響を及ぼすのかを研究しています。「スポーツには社会を変える力がある」とよく言われますが、必ずしも望ましい変化が生まれるとは限りません。そこで、誰が、どのような活動やメッセージを、誰に向けて届けたときに効果が生まれるのかを、調査や実験を通じて明らかにしてまいりました。研究を始めた当初は、アスリートが社会的・政治的問題について発信することの影響に着目していましたが、プロスポーツチームと企業・非営利団体との連携や、スタジアムにおける観客への働きかけへと対象を広げ、現在ではパラスポーツの観戦が、障がいのある方への偏見の緩和や支援行動につながるのかという問いにも取り組んでいます。スポーツの社会的価値を自明のものとせず、その可能

性と限界を実証的に捉え、よりよい社会的実践へとつなげていくことを目指しております。

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、ＪＩＳＳにはスポーツ科学・医学・情報など先端的な研究のもと充実した最新施設が揃っており、各分野の研究者・医師・トレーナー等の専門家集団が連携しあって我が国の国際競技力向上のための支援に取り組む機関です。東京オリンピック・パラリンピックに出場する多くのアスリートとともに、金メダル獲得に向けて取り組んだ経験は私の財産になっています。

これまでの研究内容としては、低酸素環境下におけるスプリントトレーニングの効果とその機序を骨格筋代謝の観点から検討してきました。ここ10年で急速に発展し、新たな低酸素トレーニングプロトコールの完成が間近に迫っています。

その他にも、「高強度インターバルトレーニングが血管内皮機能へ及ぼす影響」「ロボットスーツＨＡＬを使用したサイバネティック随意制御トレーニングが運動パフォーマンスに及ぼす効果」「来麹甘酒の長期摂取がアスリートのコンディションに及ぼす影響」など、トレーニングとコンディショニングの双方からパフォーマンス向上をねらいとした研究に取り組んでいます。

今後は、ＪＩＳＳでの経験を学生のみなさんにお伝えし、スポーツ科学を通してアスリートへ還元・支援する面白さを共有していきたいと思っています。そして、自由な発想から生まれる「リサーチクエスチョン」を一緒に解決していきたいと思います。本学スポーツ健康科学部での４年間の学びが充実したものになるよう、全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

笠井 信一 先生

はじめまして。２０２６年度より任期付き助教として着任いたしました笠井信一（かさいのぶかず）と申します。立命館大学にて博士号（スポーツ健康科学）を取得後、国立スポーツ科学センター（ＪＩＳＳ）の研究員として３年間、その後、愛知淑徳大学の教員として４年間を過ごしてきました。



笠井信一先生

田城 翼 先生

はじめまして。２０２６年４月からスポーツ健康科学部の助教に着任いたしました、田城翼（たしろつばさ）と申します。この３月まで広島大学で３年間大学教員として勤務しておりました。関西で働くのは初めてですが、このような歴史と伝統のある大学で教育と研究に携われることを大変嬉しく思っています。

私の専門分野はリハビリテーション科学で、理学療法士として医療機関やスポーツ現場で活動してきました。理学療法士（Physical Therapist）は、ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する医学的リハビリテーションの専門職です。私はその中でもスポーツ理学療法を専門とし、特に足部・足関節の傷害を対象とした研究に取り組んできました。足関節捻挫やアキレス腱傷害、肉ばなれなどをテーマに、超音波画像診断装置や３次元動作解析装置を用いて、傷害の原因や再発予防につながる知見を明らかにすることを目指しています。



加えて、日本スポーツ協会公認のアスレティックトレーナー（Athletic Trainer）として、ラグビーやサッカー、自転車競技などの現場で選手のメディカルサポートをしてきました。特にラグビーはコリジョンスポーツと呼ばれ、ルール上、選手同士の激しい衝突や相手を倒すことが認められていることから、傷害が多く発生します。脳振盪をはじめとする頭部外傷への応急対応は、競技復帰の可否だけでなく、選手の命や将来の健康を守るために欠かせない知識です。目の前の怪我をした選手の状態を良く観察し、適切な手順に沿って初期対応を素早く行うことが必要です。このような考え方は、スポーツ現場に限らず、日常生活で倒れた人や事故に遭遇した際の救命行動にもつながるため、すべての人が知っておくべき知識の一つです。私はこれまで医療機関やスポーツ現場で培った様々な経験を生かし、学生の皆さんにも、いざという時に行動できる力を身につけてもらえるような教育を行っていきたいと考えています。講義や実習を通して、スポーツ健康科学の魅力や社会とのつながりを伝えながら、ともに学び、成長していけることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。



田城翼先生

花野 宏美 先生

はじめまして。２０２６年度より特別任用助手として着任いたしました花野宏美と申します。同志社大学スポーツ健康科学部を卒業後、同大学大学院スポーツ健康科学研究科に進学し、２０２５年度に博士（スポーツ健康科学）の学位を取得いたしました。

博士後期課程では、エストロゲンを補う働きと抑える働きを有し、女性の健康維持への関与が期待されるエクオールに着目し、若年女性の体脂肪率や豆類摂取量、骨量、骨量が多いことを明らかにしました。若年期は将来の健康寿命の長さを左右する重要な時期です。これらの知見を通じて、若年期の生活習慣や体組成が将来の健康に及ぼす影響を明らかにし、ライフコース全体を見据えた疾病予防や健康寿命の延伸に貢献するエビデンスの創出を目指しています。

今後は、これまでの若年女性を対象とした研究に加え、高齢者を対象とした疫学研究や介護予防、健康寿命の延伸に関する研究にも取り組んでいく予定です。ライフコースの視点から、若年期から高齢期まで一貫した健康づくりを支える研究を推進し、科学的根拠に基づく健康支援へとつなげていきたいと考えています。

また、私は研究者であると同時に、武術太極拳の現役選手でもあり、日本強化指定選手として競技活動を続けています。競技者として培ってきた経験を研究へ、研究で得られた知見を現場へ還元できることも私の強みであると考えています。今後も、多くの人の健康づくりに貢献できる研究者を目指し、教育・研究活動に励んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



花野宏美先生



スポーツ健康科学部生の活躍

（2026年度）（8月までの戦績を抜粋）

【ボウリング部】

◎第57回全日本大学個人ボウリング選手権大会
男子5位入賞：熊凌汰（2023年度生）



【トライアスロン部】

◎第17回日本学生スプリングトライアスロン選手権渡良瀬大会兼2026全日本大学トライアスロン選抜大会
全国3位入賞（男子選抜団体）：中村就太（2023年度生）
全国優勝（女子オープン個人）：林田青空（2024年度生）

◎2026西日本学生トライアスロン選手権
尾道因島大会
西日本3位入賞（男子団体）：中村就太、泉本零次（2024年度生）

【ソフトテニス部】

◎令和8年度関西学生ソフトテニス春季リーグ戦
優勝：長根新太（2023年度生）、塚本星弥（2024年度生）、長根慎人（2025年度生）、宮田成将（2025年度生）

◎令和8年西日本学生ソフトテニス選手権大会
ダブルス優勝：長根新太、塚本星弥
ダブルス準優勝：宮田成将

【フィギュアスケート部】

◎第98回日本学生氷上競技選手権大会（7・8級）
女子選手権の部7位入賞：清水咲衣（2024年度生）

【男子ソフトボール部】

◎WBSC第2回男子U23ワールドカップ
優勝：上野結来（2023年度生）

【空手道部】

◎第70回全日本学生空手道選手権大会
個人型全国準優勝：中島汰尊（2025年度生）

【スキー部】

◎第96回全関西学生スキー選手権大会
クロスカントリー10㎞フリー1位：鈴木玲菜（2025年度生）
クロスカントリー5㎞クラシカル1位：鈴木玲菜



クロスカントリー女子スプリントチャンピオン大会1位：鈴木玲菜
クロスカントリー3×5㎞リレー1位：鈴木玲菜

【陸上競技部】

◎第103回関西学生陸上競技対校選手権大会（T&Fの部）
男子1部三段跳優勝：中田凱斗（2024年度生）

【少林寺拳法部】

◎第64回少林寺拳法関西学生大会
団体演武の部第1位：越智桃歌（2023年度生）、國吉咲月（2024年度生）、奥村音葉（2026年度生）



【ヨット部】

◎470ジュニア世界選手権
総合8位：占部心美（2025年度生）

◎令和8年度近畿北陸学生ヨット選手権個人戦
優勝：占部心美

【バドミントン部】

◎令和8年度関西学生バドミントン選手権大会
男子ダブルス優勝：大森愛叶（2025年度生）

【レスリング部】

◎令和8年度西日本学生レスリング新人選手権大会
準優勝：小林杏輔（2025年度生）



【フェンシング部】

◎令和8年度関西学生フェンシングリーグ戦（男女フルーレ）
男子1部優勝：福山寛太（2025年度生）、前田竜成（2026年度生）
女子1部優勝：大野美麗（2024年度生）

◎令和8年度関西学生フェンシング新人戦（男女フルーレ）
男子優勝：前田竜成

スポーツアトム編集局

スポーツアトム編集局（体育会情宣機関）では各部活を局員が担当し、日々体育会の活動を取材し、紙面やHPにて発信しています。「カレッジスポーツを広めたい」という想いから、全ての作業に全力を注ぎ、これからも活動していきます。
詳しくはHPをご覧ください。

http://doshisha-atom.net/

キャンパスカレンダー

秋学期

2026年 10月31日（土）	同志社クローバー祭
11月 1日（日）	
1日（日）	スポーツフェスティバル
3日（火）	文化の日（授業日）
23日（月）	勤労感謝の日（授業日）
26日（木）	創立記念行事週間（休講）
27日（金）	
28日（土）	
29日（日）	創立記念日（休日）
12月25日（金）	冬期休暇開始
25日（金）	キリスト降誕日（休日）
2027年 1月 6日（水）	冬期休暇終了
7日（木）	面接授業再開
11日（月）	成人の日（休日）
18日（月）	面接授業最終日
19日（火）	期末試験開始
23日（土）	創立者永眠の日
2月 8日（月）	期末試験終了
12日（金）～18日（木）	秋学期集中講義期間
3月 上旬	卒業可否通知
9日（火）	在学生成績通知
20日（土）	秋学期卒業式・学位授与式
21日（日）	
22日（月）	
31日（水）	秋学期終り

2026年度 教員父母連絡会役員構成について

2026年度はこのメンバーで運営いたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

	役職	氏名
父母役員	会長（3年）	橋本　佳美
	副会長（2年）	太田　秀樹
	委員（4年）	二上　英樹
	委員（4年）	田村　知英
	委員（3年）	太田　純子
	委員（2年）	安田　めぐみ
	委員／監事（1年）	笠原　久美

	役職	氏名
父母役員	委員（1年）	松原　眞巳
	委員（1年）	松井　良平
教員役員	副会長	北條　達也
	会計	岩田　昌太郎
	委員	松倉　啓太
	委員	田城　翼

教員父母連絡会寄贈図書

磐上館のラーニング・テリア（自習室）に常置します。

書籍名
アスリート支援ハンドブック　ハイパフォーマンススポーツにおける科学的サポート
国立スポーツ科学センター　メディカルチェックハンドブック
運動しても痩せないのはなぜか　代謝の最新科学が示す「それでも運動すべき理由」
運動の神話 上
運動の神話 下

ご意見ご感想は電話またはe-mailでお寄せください

スポーツ健康科学部教員父母連絡会事務局
（スポーツ健康科学部事務室内）
Tel.0774-65-6030　e-mailはこちらから▶

スポーツ健康科学部ホームページ

教員父母連絡会のページから随時最新情報を発信しております



DO FIELD 24

DO-FIELD［ドゥ・フィールド］同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 第24号　2026年11月発行
［編集・発行］同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会　〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3　同志社大学スポーツ健康科学部事務室内　Tel.0774-65-6030　Fax.0774-65-6029　e-mail : jt-spojm@mail.doshisha.ac.jp
［デザイン］郷原広行（株式会社ディア）　［制作・印刷］株式会社ディア